



Review

Audio Accessory

2013 WINTER 151 - JAPAN

「オーディオアクセサリ 銘機賞2014」
Special Issue

FURUTECHブランド25周年

20年にわたるロングセラーモデル

FI-15シリーズが最新のFI-15 Plusへ 大胆に進化!

フルテック株式会社は創立25周年を迎えた。そしてロングセラーを続ける電源プラグ/コネクタのFI-15シリーズが、発売20年となった。これを記念して、特別モデルFI-15 Plusシリーズが新開発された。新・定番コネクタとしての役割を担う進化形、FI-15Plusシリーズに盛り込まれた魅力の数々を探る。



FI-15M Plus
(R) / (G)

電源プラグ
¥5,040(R:ロジウムメッキ) / ¥4,515(G:24k金メッキ)

FI-15 Plus
(R) / (G)

IECコネクタ
¥5,040(R:ロジウムメッキ) / ¥4,515(G:24k金メッキ)

<最新型FI-15 Plusシリーズの特徴>

- 電極部は、音質の改善と耐久性を向上させた新メッキ製法の非磁性ロジウムメッキ、または24k金メッキ純銅素材のα-導体を採用し、安定した接続を確保
- ワイヤー取り付け部は、上位モデルにも採用するオリジナルのワイヤー・ロック機構を新採用
- ハウジングと電極部の取り付けネジの電位差を無くすることで、プラグ内部のブレッド部と導体の接続部から発生する乱れた電磁不要輻射を抑え、音質を向上させるための「アースジャンパー」を装備
- ハイエンド・グレード電源コネクタ用プラグ「FP-209-10(R) / (G)」を装着したケーブルを接続可能

フルテックには数多くの電源プラグ/レセプタクルがあるが、そのなかで最もベースとなるグレードを受け持っているのがFI-15シリーズである。同シリーズは既に20年もの歴史を数える、同社内でも屈指のロングセラー&ベストセラーだ。同社の葉山吉祥代表にお話を伺うと、亡くなられた長岡鉄男氏にFI-15を高く評価してもらったことが、日本における同社の地場を固める大いなる助力になったのだという。長岡鉄男氏が本誌連載記事で電源関係に着目され、実験を始めたのは1997年ごろだったか。当時私はある編集部で長岡氏を担当していた。毎週のように氏のリスニングルーム「方舟」を訪れていたのだが、行くたびにことごとく一聴してはつきり分かるほど音質が向上しているのに色めきたったものだった。特にあの当時はIEC関連のコネクタに良いものがほとんどなく、晩年の長岡サウンドを彩った非常に大きな存在だったのではないかと、いまなお確



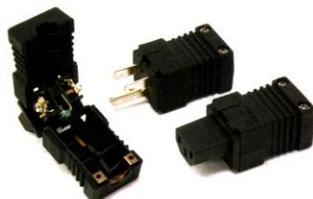
Text by
炭山アキラ
Akira Sumiyama

●フルテックの電源プラグの歴史 オーディオグレードの高音質 電源プラグはここに始まった

信を持って推測することができる。そんな氏の薫陶を受け、私のリスニングルームにもすぐにFI-15を導入した。以来十数年が経過したが、いまも必ずフレアレンス装置のどこかに挿さっている。わが長年のレファレンス・パーツのひとつである。そんなFI-15がモデルチェンジを受けるといってはいないか。その報を受け、早速新しいプラグを取り寄せて音を確認してみた。

●最新版FI-15 Plusの特徴 飽くなき改善で進化し続け 魅力を大幅に高めて新登場

まず、FI-15 Plusの質感を手で触って確かめてみると、本体とハウジングはファイバー強化ナイロン素材で、全体に面取りされているからかスマートになり、独特の無骨さは大いに和らいだが、単体の剛性・強度はむしろ上回っているのではないかと思う。コンセント側、IEC側ともに、ブレッドは超低温&特殊電磁界処理を施した純銅系のα導体で、純金とロジウムのメッキを選ぶ



20年のロングセラーを続けてきた定番モデル、FI-15シリーズ。発売以来改良を続け、アースジャンパーを装備したEバージョンとなっている

※FI-15 Plusをオスマスアペア購入の方すべてを対象に、人気の電源コネクタ用プラグが合計100名様に抽選で当たる「FI-15 Plus発売記念キャンペーン」を2014年1月31日購入分まで実施。詳細は左記ウェブおよびP398を参照

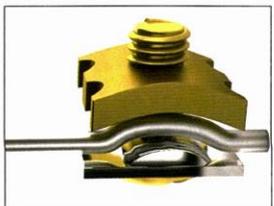


FI-15Plusの内部。結線しやすいケーブル挿入口とハウジング、新型「アースジャンパー」など、従来品と比べるとその進化の大きさが分かる。ケーブルクランプ部は、さまざまな径のケーブルに対応し、安定したグリップと共振をコントロール。安全性や作業性も大幅に高めた

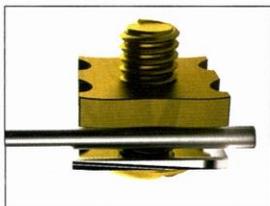
SPEC

●本体素材：ナイロン+ガラスファイバー（ハウジング一体型）●ケーブル適応径：6.6mm～15.0mmφ●ワイヤー適応径：最大5.5mmφ（10AWG）●ケーブルクランプ部：ポリカーボネート、ステンレスネジ●結線方式：ネジ止め●定格：FI-15M Plus→15A 125V A.C.、FI-15 Plus→10A 250V / 15A 125V A.C.●サイズ：FI-15M Plus→35.0mm×34.0mm×72.2mm（全長）、FI-15 Plus→35.0mm×34.0mm×72.5mm（全長）

フルテック オリジナル ワイヤーホルド



通常のワイヤーホルド



ワイヤーをホールドする金属部は、上級モデルで評価の高い、太鼓状（凸型）に膨らんだベースと凹型のナットで線材を強力に締めつけるワイヤー・ロッキング機構を新採用。ワイヤーを凹型ナットのU字型ガイドで固定するため接触面積を大きく確保、ワイヤーを歪めずしっかりとホールドする



ハイエンド・グレード 電源コネクタ用Yラグ FP-209-10 (R) / (G)

¥2,940 (R:ロジウムメッキ、10個入り)

¥5,250 (G:24k金メッキ、20個入り)

●素材：純銅板材（厚さ1.0mm）●外部サイズ：8W×25Lmm●開口サイズ：4.3mm●ワイヤー適応径：10AWG / 5.5SQmm (MAX)

<最新電源パーツ FI-15 Plusの魅力>

質感を変えずに情報量を高め 確実な音質向上を実現する

FI-15とFI-15Plusを、同じケーブルに両端ともそれぞれ装着した電源ケーブル（ともに金メッキバージョン）で比較試聴を実施した。FI-15Plusでは、帯域バランス、質感を変化させることなく、FI-15から確実な音質向上が実現されていた。まず、聴感上で大幅なSN比の高まりが感じられると同時に、明らかにレンジが広がり、超低域までスムーズに伸びて、低音楽器の空気感なども鮮明に再現される。また解像度も高まり、微細な音まで明晰に再現し、情報量の高まりも感じられた。さらに音場の透明度も高まり、個々の楽器の音像をクリアに描き出してくる一方で、エッジを強める傾向がないのが好ましい。この改良点は注目すべきものだ。



小林 貢

Mitsugu Kobayashi

メージだからだ。またFI-15Plusからは、ケーブルの取りつけに同社の電源コネクタ用Yラグ、FP-209を使うことが可能になった。同パーツのメッキにも金とロジウムがあつて、それぞれに音質が違う。プレードとYラグでメッキを違えると、両者のキャラクターが重畳する感じに興味深いものだ。我が家もいまだ実験中で、最善の組み合わせは決まられていないが、皆さんもいろいろ試してみられるとよいのではないかと

内部は上級モデルに肉薄し 総合的な性能と作業性が向上

FI-15Plusになって一番変わったのは、外観ではなく内部構造だ。まず、導体をクランプする機構が大きく改良された。近年の同社が積極的に導入している、芯線導体との接触面積が約17%増大する曲面構造のケーブル・ロッキング機構が

このグレードにも装備されたことを特筆したい。そして、音質の改善と耐久性を向上させた新メッキ製法も導入された。また、同社の独創となる「アースジャンパー」はさらに使いやすいくなって搭載。「信号経路の近傍にアースから浮いた金属を残さない」というのは回路設計の達人にとっては常識に属することだが、その考えをハウジングをクランプするビスにまで適応させたのがこのアースジャンパーで、小さなことだがこういう要素をひとつひとつ潰していくことが、高音質へ近づく最もオーソドックスな道筋なのである。最大外径の15mmまでの、4段階に調節できるポリカーボネート製のケーブルクランプの装備もうれしい。これで、ハウジングの素材以外は上級モデル

とほとんど変わりなくなってしまうことになる。たいへんなハイICPプラグになったといつて過言ではないだろう。

●FI-15Plusの音を聴く
きめ細かく音場も広くなり
手持ちの端子交換も興味深い

金メッキとロジウムメッキのプラグとコネクタ、合計4つのFI-15Plusが手元に揃ったので、2種類の電源ケーブルを作つて音を聴き比べてみる。従来品のFI-15（ロジウムメッキ）もまったく同じ構成のケーブルが手元にあるから、図らずしも3種類の聴き比べとなった。

まず従来品から聴く。このクラスとしてはかなり大スケールでレンジも広く、音像がどっしりと安定しながら、どこかざっくりとした質感を

楽しむことができるといつてよい。FI-15Plusのロジウムへ交換するとケーブルが同じなのに、あれあれ、というほどに音質が変わることが分かる。音像のきめが一気に細くなり、音場は広く、見晴らしがさらに良くなった。これは、手持ちのケーブルの端子をFI-15Plusに交換するだけでも大幅な音質向上ということになるだろう。一方、質感は従来型が少々粗さを伴いつつも結構奮闘しており、それがお気に入りの向きにはFI-15Plusの金メッキを試してみることもお薦めしたい。金メッキの方が、ロジウムよりも高域方向のすつきりと伸びる感じはいくらか下がるが、中域以下の厚みと安定性に優れるイ